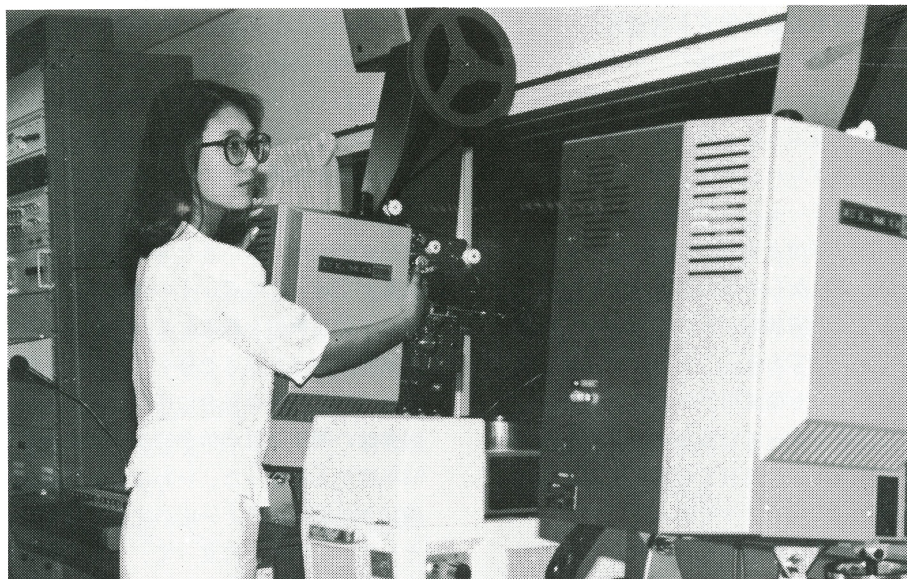


# AV JOURNAL

1986年9月 第10号



〈AVホールモニター室〉

## 目次

ハングリーを以って貴しとせず……………	附属図書館長 山口慶四郎… 2
前図書館長 故 八木浩先生と視聴覚教育 ……………視聴覚教育委員会委員長 乙 政 潤… 3	
故 松井三郎先生とLL……………	大木 充… 4
名作映画鑑賞会への誘い……………	福元 圭太… 4
「神聴覚ホール・ビデオ鑑賞会」及び 「ビデオ教室・名作ビデオ鑑賞会」について……………	7
大阪外国語大学視聴覚教育施設使用規程(案)……………	8
大阪外国語大学視聴利用規程(案)……………	9
〈視聴覚教育施設の設備拡充について〉……………	10
施設の概要……………	12
映像資料(レーザー・ディスク)所蔵一覧……………	13
編集後記……………	15
1986年度LL授業時間割表……………	16

## ハングリーを以って貴しとせず

附属図書館長 山口 慶四郎

❑ この8月中旬発行の毎日新聞は、「香港でNHKが見れる!？」という見出しで、その日系パートが放送衛星からの電波を受信する大型アンテナを設置し、まずは甲子園の高校野球のナマ放送を日本人顧客に見せ始めた、特派員の記事を書いた。

すでに知られているように、わが国の放送衛星は一昨年5月に打ち上げられ、赤道上空3万6千キロで静止軌道に乗っている。この衛星の目的は日本列島の難視聴地域の解消と放送の鮮明化にあるのである。ところが、衛星からの強力電波がスピルオーバー現象を起こし、近隣諸国でも日本のテレビ放送が受信可能となったのである。

香港にある日本企業も衛星用アンテナを設置し、日本からの情報源にもなっているという。香港、マカオのホテルでは全客室でNHKが見られるようにする計画が具体化しているようである。

香港でもNHKが見られるのなら、同じく放送衛星を打ちあげている、11時間もの時差帯のあるソ連のテレビ放送、同じく広大で世界各地に軍事基地を展開する米国のテレビ放送を日本で視聴することは不可能事ではない。

事実、関西所在の某大学では外国衛星放送用の衛星パラボラアンテナを設置し、米ソのテレビ放送を受信、L.L.教育にすでに活用している。このことを耳にしたので最近その大学を視察訪問して、米ソのテレビのナマ放送を実際にこの目にしてきた。ソ連のテレビ放送は、私のソ連滞在中に見た画面よりもっと鮮明に見られたものである。

ついでにいうと、海外で電波ジャックが増える傾向に関し、NHKは、金をもうける商業行為がなければ規制できないとしているようである。

❑ 外国語の研究・教育を主要な目的の一つとする本学における視聴覚教育の重要性はいうまでもないことである。このための施設充実については本学はかねてより意を注いできたところであるが、とくに、キャンパスを箕面に移してからは、構想される言語

教育研修センターの基礎というか萌芽ということはかなり意識して、まずは先端的といえる機器を擁する、体系的にして総合的な視聴覚教育施設を設備する主体的、客観的条件を具えてきた。

すなわち、移転に先立つ昭和53年度に録音室を整備したのを手始めにして、移転時の54年度にはL.L.教室2室を設置、その後その増室や視聴覚教室、自習室、ビデオルーム、ビデオ自習ブース、音声実験室などを整備した。また56年度にはスタジオの照明装置が完成したので、その後3年の才月をかけてスタジオ関連機器を設置してきたのである。

箕面にキャンパスを移して間もなく学内に組織された視聴覚教育委員会に所属する先生方のご努力や図書館の関係職員の情熱的な作業の結果、おかげで53年度から始まった、いわば視聴覚教育関連施設整備10カ年計画は近く一応の完成を見ようとしている。そして、このうえに立って、つづく第2次長期計画が具体的に構想され、検討されようとしているのである。

この計画のなかでは先にふれた海外テレビ放送受信システムの設置が含まれていることはもちろんである。本学の現有施設をもってすればそのための経費の支出も予想外に少なく済むのである。本学のもつ特殊性から国際コミュニケーションの積極的な展開、海外事情などのリアル・タイムな情報入手、ネイティブな言語収集がいっそう重要視されなければならないことはきわめて当然のことである。このために上記システムの設置が急務であるとされているのである。米ソのテレビ放送に限らず世界の主要国の放送が居ながらにして視聴できる日が一日も早く実現されることを共に期待しようではないか。

❑ 考えてみると(いまさら考えるまでもなく)、今日の学生諸君はまことに豊富な条件のなかで外国語を学習している。私の学生時代には? 私の場合、戦中にロシア語を専攻したのだが、その学習条件のあれこれについてはいわずもがなである。それはま

ことに貧困だったの一語につきる。

ところでつい先日、ただ「日露秘史」とあるテレビ番組にチャンネルを合わせた。これは1736（元文元）年に日本人の手によってロシアで作成された露日辞典をとりあげ、その作者ゴンザを追跡、山本学がレポートしたものであった。正確な番組名は「日露秘史！ 天才少年と薩摩弁の謎」というものであった。

21歳という若さで異郷ペテルブルグ（現レーニングラード）で客死したゴンザは薩摩出身の船乗り、カムチャツカに漂流しペテルブルグに辿り着き、そこで日本語を教授する。その地で日本人唯一人だったゴンザの日本語は次第にあやしくなる。しかもそれが薩摩弁。番組の前半はペテルブルグでのゴンザの足跡を追い（その地の人類学博物館には彼のデスマスクがある）、山本学がゴンザの辞書を使ってソ連人と会話する。後半では辞典にある彼の薩摩弁でゴンザの出身地が鹿児島県の申木野であると特定する。方言学者も登場してのこの特定は説得的だったと思う。また彼が乗り込んだ船の出発地が川内港だったとも推定する。見応えのある、まことに興味深い内容の番組であった。

私がいまこの紙面を借りてこの番組を取りあげた

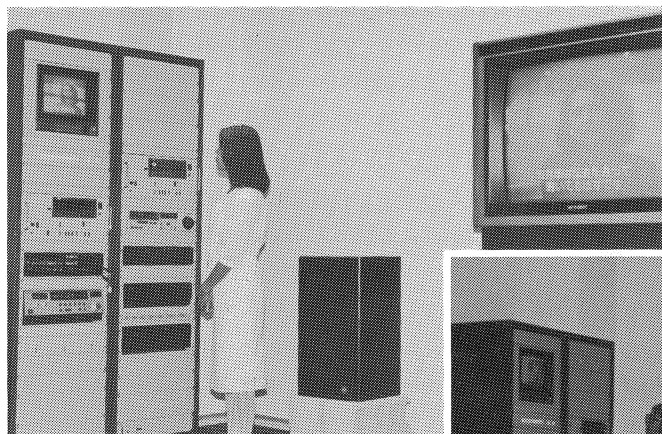
のは、若年で死去した一介の船乗りが250年も前に貧困以前の条件下で露日辞典を書き残したという事実を紹介したかったからである。私の手許に、恵贈をうけた天理図書館蔵の田辺安蔵編著『魯西亜語類』の複製がある。これはゴンザの辞典より遅れること約50年、寛政5（西暦1793）年に作成されたものである。日本国内で最初に作成された日露辞典が江戸から北海道に出張した幕吏でオランダ語の素養があった田辺安蔵によるものであることとくらべると、ゴンザの作業はますます輝きを加えるといつてよからう。

❑ 小稿でいまゴンザを紹介した意図がいわゆるハングリー精神を謳歌するためのものでは決してない。この点誤解されることはなからうと確信する。

その時代その時代に適応した外国語学習に必要な機器を今後とも積極的に導入していく必要があることは論をまたない。そして利用者を『豊富ななかの貧困』な状況においてはならない。そのためにわれわれの側のいっそうの努力も要請されていることも自覚している。

本学における学問研究のさらなる発展、教育効果のいっそうの向上を祈るものである。

（1986・9・11）



〈3階 新設ビデオ教室〉



# 前図書館長 故 八木浩先生と視聴覚教育

視聴覚教育委員会委員長 乙 政 潤

八木浩前図書館長と言ってみても、私にはそれほどなじみはなく、ドイツ語学科主任としての八木教授や、自分が学生の頃にドイツ語の手ほどきを受けた八木先生のほうがずっと思い出深い。

にもかかわらず、八木先生は私の記憶の中で視聴覚教育としっかりと結びついている。それは、先生がつとに外国語授業における視聴覚手段の重要性を自覚せられ、事あるごとに視聴覚手段を授業や学習に持込むよう心がけられ、かつ実行しておられたのを、私がつぶさに見ているからである。

昭和35年、私がドイツ語学科の助手に採用された頃——L.L.が上八学舎に設置されたのは昭和37年(1962年)——先生はSpoken Germanのレコードを学生たちと聞くことに熱中しておられた。重い5球スーパーの電蓄(今では意味の分らない人も多かろう)を教室まで運んで、騰写版(これまた懐かしい言葉だ)で刷ったテキストを配って、週1回「聞か会」を開かれるのであった。

その外にも、授業中にしばしばドイツ文学作品の朗読レコードを聞かすこともされた。やがて、テープレコーダーが一般化して、研究室にも購入されると(と言っても、現在のカセットレコーダーなどではなくて、小型のトランクにも近かった)、先生は早速これを教室へ持込まれ、録音テープを授業に使われるのであった。

先生は早くからドイツ語学科の語史・文学史の講義を担当しておられたが、その際も、視覚に訴えて理解を深めることの大切さをよく認識され、本の挿絵や図版、はたまたカレンダーから切り取った写真を教室でしばしば回覧された。先生の書齋には、これらの切り抜きを溜める大型の封筒が備えられていたのを覚えている。

先生がはじめてドイツへ渡られた昭和37年(1962年)からあとは、先生の講義にはドイツで集められたスライドがこれまでの挿絵や写真にとって代るようになる。講義における先生のスライドの愛用はそ

の後ずっと続き、種類はどんどんと豊富さを増して行き、講義の前に準備としていそいそと御自分の膨大な収集の中から選び出され配列を考えておられるのが日常の姿となった。

先生の視聴覚資料の利用についてとりわけ印象的なのは、先生が決して華麗な既製品の教材や大型で精巧で高価な器機に手を出されなかったことである。スライドは半ばは自作であったし、プロジェクターは最も簡素な手動式のものであった。先生はそれらをいかにも楽しげに利用された。外見を重んじない、上面を飾らない先生らしい態度であった。

そのように視聴覚教育に深い関心と理解を持ち、熱心実践された八木先生であったが、L.L.教室はついぞ一度も利用されたことがなかった。この不思議を説明できるのは、おそらく私ひとりであろう。それは、実は、本学にL.L.が初めて設置された時に、ちょうど先生はドイツへ留学しておられたためなのだ。もし日本におられたなら、熱心な先生のことだ、必ずや率先してL.L.の操作の習熟にはげまれ、ついにはドイツ語学科きってのL.L.の「マイスター」になられたに違いない。先生にとって、この点だけは運が悪かった。そして、私にとっては運がよかった。先生の留守中、私はL.L.の操作の講習に出て、その技術を身につけてしまい、先生が帰国されたときには、ドイツ語学科の中でL.L.授業担当者の位置を占めてしまっていた。おかげで、何につけてもまず頭の上らない恩師八木先生に、不肖の弟子はこの点においてだけさやかな優越感を覚えるのであった。もっとも、最近になって、これは若い者に一つくらい得意の領域を残してやれという先生の大度であったのではないかと思うのだが。

(1986・9・17)

## 故 松井三郎先生とL.L

フランス語学科 大木 充

今年の4月にフランス語学科の松井三郎先生が亡くなった。ちょうど満開の桜が散り始めた頃であった。

先生のシャンソン好きはつとに有名で、この AV Journal の第5号にも「シャンソンと私」という一文をお寄せくださった。今あらためてこの文を読ませていただくと、先生がシャンソンの収集を楽しんでやっておられる様子がよくわかる。それだけに、人の命のはかなさがより強く伝わってくる。

L.L.の授業を初めて担当する私に、松井先生が、「L.L.なんていうのは、テープを一本持って行って流しておきさえすればいいんだから、誰でもできるよ」とおっしゃったことがあった。しかし、実際に授業を担当してみて、諸々の機器をうまく操り、「効果的で楽しい授業」をするには、かなりの準備と熟練を要

することがわかった。普通教室での授業のように、十分な予習ができなかったときには、適当に口からでまかせを言ってお茶をにごしておくことができなことがわかった。L.L.の授業が、その準備にこんなに時間がかかり、熟練を要するものであることが始めからわかっていたなら、私は尻込みをしてしまい、けっして引き受けなかっただろうと思う。ところが今は、「効果的で楽しい」L.L.の授業で学生に満足してもらっているし、外大のフランス語科の学生のレベルアップに寄与することができるようになったと少なからず自負している。これは、松井先生が、「テープ一本持って行って……」とおっしゃってくださった御蔭だと思ふ。今は先生に感謝している。

## 名作映画鑑賞会への誘い<sup>いざな</sup>

ドイツ語科非常勤講師 福元圭太

この6月以来、毎週木曜日の午後1時から図書館3階奥のビデオルームで、映画の上映会が続けられている。派手な宣伝をしないせいか、見に来る人たちはごくわずかで、メンバーも決まっているが、上映される映画の質の高さを考えるともっと多くの人が集まってもよいのではないかと思ひ、筆をとった次第である。

「映画の質が高い」と大見得を切ったものの、実は私は映画に関してははずぶの素人であり、よく映画雑誌でみかけるような、星印の数で作品のよしあしを評価するなどという芸当はできない。また、ある映画がどういう時代、どういう映画潮流の中で、どのような位置を占める作品であるのか、もわからない。しかし、図書館側がすでに、様々な作品をうまくアレンジしてくれており、続けて見れば映画史の

重要なポイントがつかめるようになっていたので、私のように全く映画を知らない人たちも、体系的な映画鑑賞ができるのではないだろうか。

大体高いお金を払ってまで映画を見に行こうなどと思わない人たちにとって、無料で、しかも字幕つきノーカット版で、ゆったりと名画が見れるというのは、まことにありがたいことである。図書館の3階なのだから、アセンブリー・アワーを利用して素敵な映画を一人で（あるいは幸せな方はお二人でどうぞ）見て、また授業に出る、ということもできるわけだ。ただでさえ文化的環境（あえて「遊び場」とはいわないが）に乏しい外大にあって、毎木曜日のこの映画会は、まさに知的刺激に満ちた催しである。

夏休み前までに上映されたのは、次の5本である。『2001年宇宙の旅』（S・キューブリック、1968）、

『最前線物語』(S・フラワー, 1980)、『フェイク』(オーソン・ウェルズ, 1975)、『キートン将軍』(B・キートン, 1926)、『昼顔』(L・ブニエール, 1967)。私はこれらすべてを拝見したが、いわゆる「わけのわからない」映画もあったものの、いっばしの「映画通」になったような錯覚をおこして、この原稿をはからずもひきうけてしまったのである。もう御覧になった方もあろうが、これらの作品に関してあえて一言ずつ。

まず、『2001年宇宙の旅』。梅田あたりの映画館にかなりロング・ランでかかっていたと思う。リヒャルト・シュトラウスの音楽(『ツアラトウストラかく語りき』)の大言壮語的な響きではじまり、BGMには、ほとんど間断なく、のどやかな『美しく青きドナウ』が流れる。ラストシーンに関してははしかつめらしい解釈も可能だろうが、私は自分の解釈を保留せざるを得ない。平たくいえば、「わけがわからない」のである。

次に『最前線物語』。アメリカの新しい映画で、いわゆる戦争ものである。鬼軍曹と若い兵士たちという構図は、昔懐かしいテレビ映画『コンバット』を彷彿とさせる。戦争映画独特の緊張感に満ち、何も考えずに見ていれば非常におもしろいのだが、画面で多くの若者が次々に殺されていくのを見ると、はたして戦争映画を楽しんでもよいのだろうか、という疑問に突き当たらざるを得ない。確かに戦争の悲惨さ、愚かさを余すところなく描くようなすぐれた戦争映画もあるだろう。『最前線物語』もそのような最画の一つに加えてもよいと思う。だが、戦争の中でヒーローが生まれ、そのヒーローが「敵」あるいは「仮想敵国」をこてんぱんにやっつけるといった、『ランボー』ばりの戦争映画は、ナンセンス、愚の骨頂、危険なナショナリズムである。ブレヒトのいう如く、ヒーローを必要とする国は不幸なのである。

『フェイク』は「似せもの、贋作、でっちあげ」といった意味で、ピカソやモディリアーニ等の贋作を描いては高値で売りさばく贋作画家や詐欺師、ま

た、自らフェイカーであるとうそぶくオーソン・ウェルズその人が画面に登場する。シルクハットに黒マントというおなじみのいでたちで監督自らが語り手として映像に登場することによってこの映画は、感情移入を許さない、叙事的なものとなっている。あたかも本物であるかのように珍重され、巨額で取り引きされる「フェイク」のからくりを暴いてみせたこの作品は、有名な人の手になるものというふれこみさえあれば何でもありがたがり、実体のない象徴価値に踊らされる人間への痛烈なアイロニーである。いささか次元は低くなるが、グッチやバレンチノの「フェイク」を題材にしても、この種のアイロニーは可能なようである。

さて、紙面も残り少なくなってきた。無駄なおしゃべりはこのくらいにして、これからの上映プログラムを紹介してみよう。まず9月18日、25日には「イタリア映画の二人の巨匠」と銘うって、ヴィスコンティの『ルードウィヒ』(1972)とフェリーニの『カサノヴァ』(1976)が、10月2日と10月9日には「フランスの古典作家」というタイトルで、ベッケルの『肉体の冠』(1951)とカルネの『嘆きのテレーズ』(1952)が予定されている。その後は順次、「ワイマール共和国の残照」という、いささか力んだタイトルのもと、ザガンの『制服の処女』(1931)、シャレルの『会議は踊る』(1931)が、次に「第二次大戦前ハリウッド映画の正統」として、ホークスの『暗黒街の顔役』(1931)、ヒッチコックの『海外特派員』(1940)が用意されている。その後、タルコフスキーの『ノスタルジア』、エリセの『エル・スール』、黒沢の『デルス・ウザーラ』、寺山の『さらば箱舟』、イタリアン・ネオ・リアリズムから『戦火のかなた』、『自転車泥棒』、ポーランド映画から『地下水道』、『夜行列車』、フランス・ヌーヴェルバーグではトリフォーとゴダールからそれぞれ、『突然炎の如く』と『男と女のいる舗道』等も予定されているらしい。気軽に一度のぞいて見られるよう、強くおすすめして筆をおく。

文中の「ワイマール共和国の残照」という表題は、「東の間のワイマール共和国」と変更しました。なお、福元講師は、8月末から訪欧され、現在は東ベルリンで留学生活に入っておられます。 —L.L.係—

## 「視聴覚ホール・ビデオ鑑賞会」、及び 「ビデオ教室・名作ビデオ鑑賞会」について

L.L.係では、視聴覚ホールとビデオ教室のビデオ・システム新設、更新を機に、この6月から、木曜日3限目のアセンブリアワーに上記の鑑賞会を開催しています。今後のスケジュールと、これまでのプログラム、ならびに参加状況は以下のとおりです。

### § 今後のスケジュール

- \* 視聴覚ホール (1時開始 150名まで)
- 10月2日 「ドント・ルック・バック/ボブ・ディラン ロンドン 1965」
- 9日 「ビリー・ジョエル・ニュー・ヨーク・ライブ」
- 16日 「ひまわり」
- 23日 「シェルブールの雨傘」
- 11月6日 「真夏の夜のジャズ」
- 13日 「マイフェア・レディ」
- 20日 「サウンド・オブ・ミュージック」
- \* ビデオ教室 (1時開始 36名まで)
- 〔フランスの古典作家〕
- 10月2日 J. ベッケル 「肉体の冠」 (1951)
- 9日 M. カルネ 「嘆きのテレーズ」 (1952)
- 〔東の間のワイマール共和国〕
- 10月16日 L. ザガン 「制服の処女」 (1931)
- 23日 E. シャレル 「会議は踊る」 (1931)
- 〔第二次大戦前ハリウッド映画の正統〕
- 11月6日 H. ホークス 「暗黒街の顔役」 (1931)
- 13日 A. ヒッチコック 「海外特派員」 (1940)
- 〔現代秀作シリーズ〕
- 11月20日 E. パルシー 「マルチニックの少年」 (1983)
- 27日 Y. ギュネイ 「路(みち)」 (1982)
- 12月4日 A. タルコフスキー 「ノスタルジア」 (1983)
- 11日 T. アンゲロプロス 「旅芸人の記録」 (1975)
- 〔同 : 特集 エリセ〕
- 1月22日 V. エリセ 「みつばちのささやき」 (1973)
- 29日 V. エリセ 「エル・スール」 (1983)

### § これまでのプログラムと参加者は以下のとおりです。

- \* 視聴覚ホール
- 6月5日 「卒業」 (5名)
- 12日 「アマデウス」 (11名)
- 19日 「ウエスト・サイド物語」 (2名)
- 26日 「ネバー・エンディング・ストーリー」 (17名)
- 7月3日 「メアリー・ポピンズ」 (12名)
- 9月18日 「サウンド・オブ・ミュージック」 (中止)
- 25日 「誰が為に鐘は鳴る」 (14名)
- \* ビデオ教室
- 〔現代アメリカ映画の秀作〕
- 6月5日 S. キューブリック 「2001年宇宙の旅」 (1968) (4名)
- 12日 S. フラー 「最前線物語」 (1980) (4名)
- 〔偉大な3人の映画作家〕
- 6月19日 G. オーソン・ウエルズ 「フェイク」 (1975) (7名)
- 26日 B. キートン 「キートン将軍」 (1926) (3名)
- 7月3日 L. ブニュエル 「昼顔」 (1967) (6名)
- 〔イタリア映画の二人の巨匠〕
- 9月18日 L. ヴィスコンティ 「ルードウィヒ - 神々の黄昏 -」 (1972) (9名)
- 25日 F. フェリーニ 「カサノヴァ」 (1976) (10名)

ごらんのようにまだまだ参加者は多くありません。多数の参加を待ちます。

# 大阪外国語大学視聴覚教育施設使用規程(案)

## 視聴覚教育委員会

第1条 本規程は大阪外国語大学附属図書館規則第1条にいう「視聴覚教育施設使用規程」であって、大阪外国語大学附属図書館（以下「図書館」という）に属する視聴覚教育施設（以下「施設」という）管理運営について定める。

第2条 施設を次の4種に分ける。

- (1) 教育施設（LL教室、ビデオ教室、同時通訳練習室〈デジションルーム、ブース、モニター室〉、オーディオ・ビジュアル・ホール〈AVホール〉）
- (2) 教材作成室・研究施設（教材作成室、録音室、スタジオ、海外受信室、音声実験室）
- (3) 共同利用施設（テープライブラリー、LL自習室、ビデオ自習室）
- (4) 管理施設（事務室、資料室、資料整理室）

第3条 施設は図書館長が管理運営する。

第4条 施設を使用することができるもの（以下「使用者」という）は大阪外国語大学附属図書館規則第4条に定める「利用者」である。

2. 教育施設は教官の指導下で使用するのを原則とする。
3. 教材作成・研究施設は本学教職員（名誉教授、非常勤教職員を含む）が専ら使用する。ただし、特に図書館長の承認を受け、手続きを経たものはこれに準ずるものとする。

第5条 施設は次の目的に使用する。

- (1) 本学が視聴覚教育のために行う授業
- (2) 本学が主催または主管する行事等
- (3) 本館が主催または主管する行事等
- (4) 本学の教職員及び学生が行う視聴覚教育を対象とした研究教育活動。  
但し、学生の場合は教官の指導下に行う

ことを原則とする

(5) 本学学生が行う視聴覚教育を目的とした課外活動

(6) その他、図書館長が特に使用を許可した行事

2. 施設は営利目的に利用することはできない。

第6条 施設の使用時間は、原則として、月曜日から金曜日までは午前9時10分から午後9時10分まで、土曜日は午前9時10分から午後0時20分までとする。

2. 各施設の使用時間の詳細は、それぞれについて、利用細則に定める。

第7条 各施設の使用に関する詳細は、それぞれについて利用細則に定める。

第8条 施設を使用しようとする者は、使用日の1週間までに所定の施設使用許可願を図書館長に提出するものとする。

2. 授業のために年間を通じて使用する場合は、毎年度始めに当該の授業を管轄する部課の長より図書館長に時間割の形で連絡するものとする。

第9条 使用者は、施設を使用するに当たって係員の指示に従わなければならない。

2. 教育施設並びに共同利用施設における飲食・喫煙は禁止する。

第10条 本規程の使用に関する条項に違反した使用者に対しては、図書館長は使用を停止もしくは禁止することがある。

第11条 使用者は、故意または過失により施設の設備、備品等を破損、滅失または汚損した場合は、その損害額を弁償しなければならない。

第12条 この規程に定める以外に施設の使用に関して必要となる事項は、視聴覚教育委員会の審議に基き図書館長が定める。



# 大阪外国語大学視聴覚資料利用規程(案)

視聴覚教育委員会

第1条 本規程は大阪外国語大学附属図書館規則第1条にいう「視聴覚資料利用規程であって、同上規則第2条の(6)にいう「視聴覚資料」(以下「資料」という)の利用について定める。

第2条 資料は次の3種に分ける。

- (1) 聴覚資料(レコード、フォノシート、録音テープ、コンパクトディスクなど)
- (2) 視覚資料(フラッシュカード、静止画、掛図、トランスペアレンジャー、スライド、ロールスライド、無声フィルムなど)
- (3) 視聴覚資料(トーキーフィルム、ビデオテープ、レーザーディスクなど)

2. 上記資料に附属するテキスト類は資料の一部として扱う。

第3条 資料はすべて附属図書館視聴覚資料係が管理しかつ運用する。

第4条 資料を利用することができるもの(以下「利用者」という)は、「大阪外国語大学附属図書館規則」第4条に定められたものである。

第5条 利用者は、資料を借り受けるにあたって、所定の用紙に必要事項を記入し係員に提出する。本学学生はその際に学生証をあわせて提出する。

第6条 利用者は資料を、「大阪外国語大学視聴覚教育施設使用規程」第2条に定める「共同利用施設」において利用する。施設外へ持出して利用することは原則として認めない。

第7条 資料の複製は、資料の著作権者の許可を得た場合を除いては、一切行うことはできない。

第8条 利用者が一度に借り受けることができる資料は一点に限る。

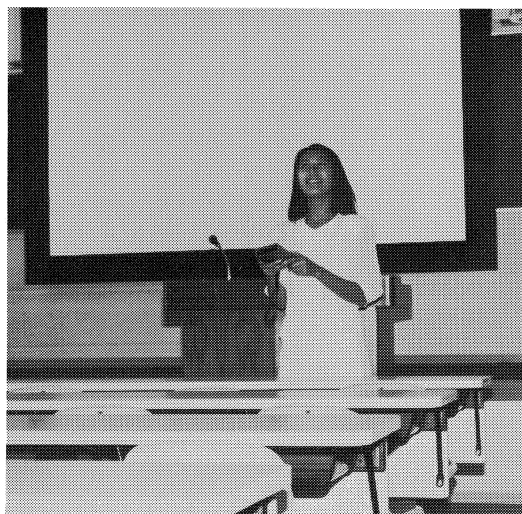
第9条 資料の借り受けに関する手続きは、すべ

て利用者本人が自ら行わなければならない。

第10条 利用者は、資料を毀損、汚染または紛失した場合は、同じ資料を代納するか、相応の代価で以て弁償するかしなければならない。

第11条 本規程の利用に関する条項に違反した利用者に対しては図書館長は資料の利用を停止または禁止することがある。

現在この規程は、庶務委員会で検討中です。  
この規程は1979年移転後から視聴覚教育委員会で検討を続け、現在内規として運用しているものです。



〈AVホール・ビデオスクリーン〉

## <視聴覚教育施設の設備拡充について>

ビデオ教室（旧ビデオ・ルーム、1986年3月27日、視聴覚教育委員会で改称）と視聴覚ホール（旧視聴覚教室、同上）の設備内容が、1985年度末、以下のように一新され、利用に供されていますので報告します。

### § ビデオ教室

1. NTSC方式（日本国内仕様のテレビシステム）
  - 37インチ・モニター・テレビ（37C960） 1台
  - U-matic VTR（VP-5000） 1台  
（ステレオ・音声多重可）
  - $\frac{1}{2}$ ベータVTR（GCS-50） 1台  
（HiFiステレオ・音声多重・ハイバンド可）
  - $\frac{1}{2}$ VHS VTR（HR-D755） 1台  
（HiFiステレオ・音声多重・テレビ受信可）
  - LD・CDプレーヤー（CLD-7） 1台
2. Pal・Secam方式（海外仕様のテレビシステム）
  - 27インチ・モニター・テレビ（KX-27PS1） 1台
  - U-matic VTR（VP-5030） 1台

（ステレオ・音声多重可）

○ $\frac{1}{2}$ ベータVTR（SL-800ME） 1台

○ $\frac{1}{2}$ VHS VTR（AG-6200ENZ） 1台

（ステレオ・音声多重可）

### 3. 共有部

○ラック用13インチ・モニター・テレビ

（PVM-1371Q） 1台

○ステレオ・プリメイン・アンプ

（TA-F333ES） 1台

○スピーカー（APM-66ES） 2台

○A.V.セクター 1台

○Auxパネル（3系統） 1台

### 4. その他

○スライド映写機（Omnigraphic 252）

1台

○OHP（HP-2450D） 1台

○天井取付スクリーン（UN-15） 1台

以上により、国内、国外を問わずすべてのビデオ・システムの使用が可能であり、またスライド・OHPの使用と合わせ、Visual専用教室としての機能を充たしています。

### § 視聴覚ホール

1. メイン・オーディオ・システム
  - プレーヤー（GT2000L） 1台
  - CDプレーヤー（CCP-553ESD） 1台
  - FMチューナー（KT-3030） 1台
  - カセット・デッキ（TC-K777ES） 2台
  - プリ・アンプ（Sc-11） 1台
  - パワー・アンプ（510） 2台
  - スピーカー（A-7） 2台  
（なお従来からある室内マイクシステムの録音入力と、以下のビデオ・16mm映写システムの音声は、上記リアンプ部に

入力して、メイン・オーディオ・システムをそのまま使用します）。

### 2. ビデオ・システム部

○150インチ・ビデオ・プロジェクター用電動昇降スクリーン（特注） 1台

○150インチ・ビデオ・プロジェクター（VHP-1030QJ） 1台

○ラック用モニター・テレビ（PVM9020） 1台

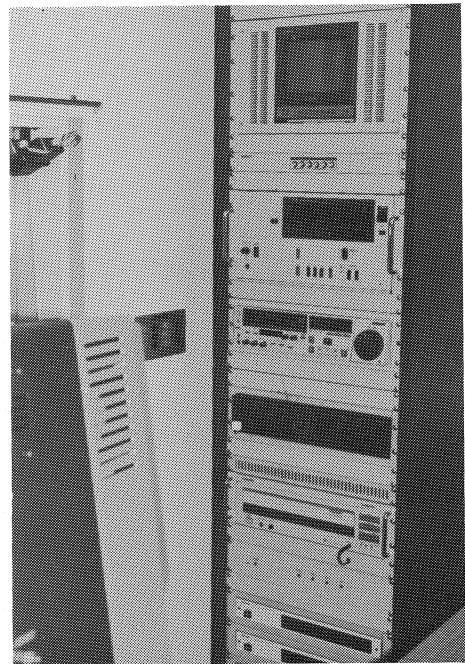
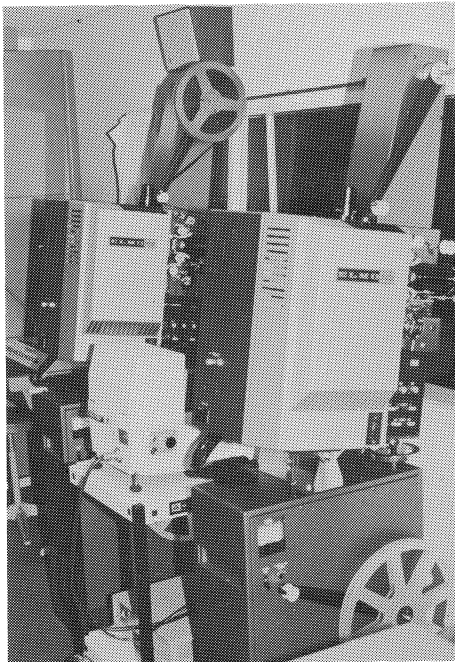
○U-matic VTR（VP-5000） 1台

（ステレオ・音声多重可）

- $\frac{1}{2}$ ベータVTR (GCS-50) 1台  
(Hifiステレオ・音声多重・ハイバンド可)
  - $\frac{1}{2}$ VHS (HR-D755) 1台  
(Hifiステレオ・音声多重・テレビ受信可)
  - LDプレーヤー (LDP-2000) 1台
  - AVセクター 1台
  - 3. 16mm映写システム
    - 映写機 (XL-1100) 2台  
(オートチェンジャー付)
  - 4. ビデオ・16mm映写機・スライド用リモコン
    - ビデオ・システム用リモコン・ユニット (特注) 1台
    - 同上用赤外線ワイヤレス・リモコン (EW-3005B) 1台
  - 16mm映写機・スライドシステム用リモコン・ユニット (特注) 1台
  - 同上用赤外線ワイヤレス・リモコン (EW-3004B) 1台
  - 音声用リモコン・ユニット (特注) 1台
- (当リモコン・システムによって、講演者、あるいは講義者卓や、ホール内の任意の位置から、それぞれのシステムが遠隔操作が可能となっています。)

- 5. フロア・オーディオ・システム
  - プレーヤー (KP-1100) 1台
  - CDプレーヤー (CD-P70) 1台
  - カセット・デッキ (TC-K555ESII) 1台
  - プリメインアンプ (PM-84) 1台
  - スピーカー (SB-E100) 2台

以上により、従来から要望の高かった取聴覚ホールでのビデオ放映が可能となり(国内全機種)、また16mm映写機とメイン・オーディオ・システムの更新によって、より高度な映像、音響機能に改善されています。さらにリモコン・システムによって、ビデオ、スライド・16mm映画のそれぞれが、講演者あるいは講義者自身で遠隔操作でき、より機能的に使用することが可能となっています。またフロア・オーディオ・システムの新設によって、純オーディオ・システムにおいても、従来とは異なりそのままの位置で使用できるようになっています。



〈AVホール・モニター室〉

## 施 設 の 概 要

階数	室 名	数 量	面 積	設 備 名	使 用 目 的
3	ビ デ オ 教 室	30席 (補助6席)	39㎡	モニター・テレビ×2、ビデオコーダー (Umatic, β, VHS型各×2), CLDプレーヤー	ビデオ使用による授業
	ビ デ オ 自 習 ブ ー ス	18ブース (36席)	77.5㎡	映像モニター (リモコン付) ブース×18	ビデオ自習用
4	L.L.教室 (1)	45ブース	132.5㎡	各ブースカラーテレビ付 教材提示装置、マイコンアナライザー、全リモコンマスターコンソール	各語学科L.L. 授業で使用
	L.L.教室 (2)	45ブース	100.5㎡	各ブースカラーテレビ付 教材提示装置、リスポンス・アナライザー、全リモコンマスターコンソール	各語学科L.L. 授業で使用
	A.V.ホ ー ル	176席	233㎡	電動スクリーン・カーテン、リモコン、マイク、大型スピーカー、ビデオプロジェクター (150インチ)、ビデオコーダー (Umatic, β, VHS型) LD プレーヤー、16mm映写機×2	視聴覚授業、学会、映画会、コンサート等に使用
	デシジョンルーム 同 時 通 訊 室	21席 5席	62.5㎡ 12㎡	会議ユニット、送信機、受信機 同時通訊ユニット、録音装置	小国際会議場として使用 同時通訊演練のため英語学科授業 他研究会に例用
	テープライブラ リ ー 室	24席	77.5㎡	所蔵テープ、レコード16,000点 所蔵ビデオ、LD700点、ビデオ送出装置 (18ブース用)	学生の自習用のため使用 (教材自動送出装置 4席) (リスニング ブース 4席) (L.L. 自習ブース 16席)
	録音室(アナウ ンスルーム・制御室) ス タ ジ オ		28㎡ 121㎡	円盤再生機、高性能録音機、 マイクミキサー ビデオ撮影機、編集機、テレ シネ装置、照明装置	Native Speaker の録音のため使用 独自教材の開発、映像音声、収録 のため使用
	企 画 室		11.5㎡		
	調 整 室		12㎡		
	編 集 室		11.5㎡		
	視聴覚資料室		39㎡		視聴覚資料書庫
	コ ン ピ ュ ー タ ー 室		39㎡		
事 務 室		77.5㎡	各ブースカラーテレビ付 教材提示装置、マイコンアナライザー、全リモコンマスターコンソール	各語学科L.L. 授業及び視聴覚授業 で使用	
資 料 整 理 室		19.5㎡			
モ ニ タ ー 室		19.5㎡			
L.L.教室 (3)	44ブース	155.5㎡			
L.L.教室 (4)	32ブース	77.5㎡	各ブースカラーテレビ、ビデオコーダー付(VHS・Be型)、教材提示装置、マイコンアナライザー、全リモコンマスターコンソール、70型ビデオプロジェクター、OHPスライド、リモコン付移動式レクチャーテーブル、教材送り出し用ビデオコーダー(Umatic, Be, VHS)	各語科L.L. 授業で使用	
L.L. 自 習 室	17席 (25名)	58㎡	ビデオコーダー、カセットコーダー	録音ビデオ教材の貸出によって 学生が自習する室	
映写モニター室		20㎡	オーディオ装置、マイクミキサー		

階数	室名	数量	面積	設備名	使用目的
5	音声実験室	3室	48.5m <sup>2</sup>	サウンドスペクトログラフ、 ビジピッチ、オシロスコープ 他各種音声分析装置	言語の性質を解明するためまがり ものない音声を取録、分析する ため使用
	無響室		29m <sup>2</sup>		
	教材作成室		58.5m <sup>2</sup>	テープレコーダー、カセットコ ーダー、パソコン、個別学習装置	教材の編集（音声）のために使用
	海外放送受信室 準備室		11m <sup>2</sup> 11m <sup>2</sup>	受信機、テープレコーダー	海外放送を受信、録音

## 映像資料(レーザー・ディスク)所蔵一覧

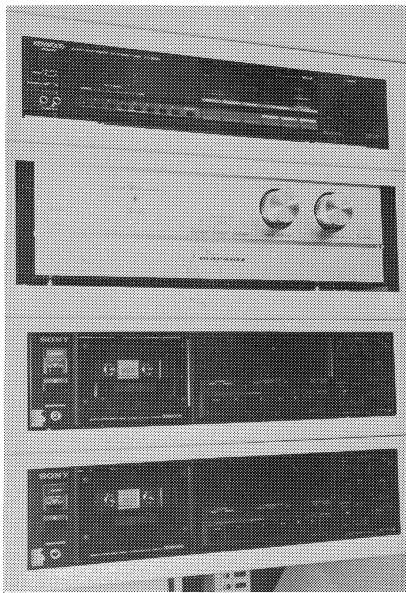
その2

(1986年9月現在)

資 料 名	所要時間	数量	
Maria Callas Hamburg concerts 1959, 1962. (マリア・カラス ハンブルグ・コンサート)	2'56	2	V 766 C (LD) X-7
Jazz on a summer's day. (真夏の夜のジャズ)	1'22	1	V 764.7 I (LD) X-8
The Metropolitan Opera - Centennial Gala. (メトロポリタン歌劇場百周年記念ガラコンサート)	3'53	2	V 766 M (LD) X-9
洪 金宝 / 五福星 (日本語字幕)	1'43	1	V 923 G (LD) C-17
Guney, Yilmaz/ Yol. (路 みち) ( " )	1'55	1	V 929.57 Y (LD) Tr-1
Mary Poppins. (メリー・ポピンズ) ( " )	2'19	2	766.7 M (LD) E-33
Billy Joel New York Live. (ビリー・ジョエル ニューヨーク・ライブ)	1'21	1	767.8 B (LD) E-83
Gandhi. (ガンジー) (日本語字幕)	3'08	2	933 G (LD) E-110
Olivier, Laurence/ Richard III. (リチャード三世) (日本語字幕)	2'19	2	V 932 R (LD) E-162
Visconti, Luchino/ Conversation piece. (家族の肖像) ( " )	2'01	2	V 933 C (LD) E-163
Cukor, George/ Rich and famous. (ベストフレンズ) ( " )	1'57	1	V 933 R (LD) E-164
Zeffirelli, Franco/ The Champ. (チャンプ) ( " )	2'03	2	V 933 C (LD) E-165
Forman, Milos/ Amadeus. (アマデウス) ( " )	2'40	2	V 932 A (LD) E-166
Wise, R. & J. Robbins/ West side story. (ウエスト・サイド物語) ( " )	2'32	2	V 766.7 W (LD) E-167
Kroitor, R. & W. Koenig/ Glenn Gould, off the record - on the record. グレン・グールドーピアノ演奏の秘密 ( " )	0'53	1	V 763 G (LD) E-168
John Lennon - Live in New York City. (ジョン・レノン・ライブ) ( " )	0'55	1	V 767.8 L (LD) E-169
David Bowie in Ziggy Stardust. (デビッド・ボウイ イン ジギー・スターダスト)	1'30	1	V 767.8 B (LD) E-170

資 料 名	所要時間	数量			
Nichols, Mike/ The Graduate. (卒業) (日本語字幕)	1'47	1	V 933 G (LD)	E-180	
Welles, G. Orson/ F for fake. (フェイク) ( " )	1'29	1	V 933 F (LD)	E-181	
Sagan, Leontine/ Madchen in Uniform. (制服の処女) ( " )	1'23	1	V 943 M (LD)	D-11	
Fassbinder, R. W. / Die Ehe der Maria Braun. (マリア・ブラウンの結婚) ( " )	2'00	2	V 943 E (LD)	D-12	
Nena/ Starportait Nena. (ヨーロッパ・ツアー・ライブ84)	0'58	1	V 767.8 N (LD)	D-13	
Bergman, Ingmar/ Viskningar och rop. (叫びとささやき) ( " )	1'31	1	V 949.8 V (LD)	Swed-4	
Antonioni, Michelangelo/ L'Eclipse. (太陽はひとりぼっち) ( " )	2'03	2	V 953 E (LD)	F-42	
Becker, Jacques/ Casque d'Or. (肉体の冠) ( " )	1'39	1	V 953 C (LD)	F-43	
Losey, Joseph/ Eva. (エヴァの匂い) ( " )	1'52	1	V 953 E (LD)	F-44	
Pinoteau, Claude/ La Boum 2. (ラ・ブーム 2) ( " )	1'48	1	V 953 B (LD)	F-45	
Lautner, Georges/ Joyeuses paques. (恋にくちづけ) ( " )	1'39	1	V 953 J (LD)	F-46	
Truffaut, Francois/ Les quatre cents coups. (大人は判ってくれない) ( " )	1'40	1	V 953 Q (LD)	F-47	
Truffaut, F. / Les mistons. (あこがれ) ( " )	0'18	1	V 953 M (LD)	F-48	
Truffaut, F. / Jules et Jim. (突然炎のごとく) ( " )	1'48	1	V 953 J (LD)	F-49	
Truffaut, F. / L'amour en fuit. (逃げ去る恋) ( " )	1'36	1	V 953 A (LD)	F-50	
Erice, Victor/ El espiritu de la colmena. (ミツバチのささやき) ( " )	1'39	1	V 963 E (LD)	S-6	
De Sica, Vittorio/ Sciuscia. (靴みがき) ( " )	1'32	1	V 973 S (LD)	It-12	
De Sica, Vittorio/ Ladri di biciclette. (自転車泥棒) ( " )	1'28	1	V 973 L (LD)	It-13	
Fellini, Federico/ Il Casanova. (カサノバ) ( " )	2'34	2	V 973 C (LD)	It-14	
Fellini, Federico/ E la nave va. (そして船は行く) ( " )	2'08	2	V 973 E (LD)	It-15	
Visconti, Luchino/ Ludwig. (ルードウィヒ -神々のたそがれ-) ( " )	3'04	2	V 973 L (LD)	It-16	
Mozart, W. A. / Idomeneo. (イドメネオ -歌劇-) ( " )	3'03	2	V 766 M (LD)	It-21	
<b>Норштин, Юрий/ Сказка сказок.</b> (話の話) (二ヶ国語)	1'00	2	V 726 S (LD)	R-10	
Trnka, Jiří/ Sen noci svatojanské. etc. (真夏の夜の夢 付2短編) (字幕一部二ヶ国語)	1'49	2	V 777 S (LD)	Cz-1	
Wajda, Andrzej/ Ziemia obiecana. (約束の土地) (日本語字幕)	2'49	2	V 989.8 Z (LD)	Po-7	
Polanski, R. / Noz w wodzie. (水の中のナイフ) ( " )	1'34	1	V 989.8 N (LD)	Po-8	

資 料 名	所要時間	数量	
東京物語 (小津安二郎)	2'15	2	V913 (LD) J J-36
晩春 (小津安二郎)	1'48	1	V913 B (LD) J J-56
破れ太鼓 (木下恵介)	1'50	1	V913 Y (LD) J J-57
細雪 ささめゆき (市川 崑)	2'20	2	V913 S (LD) J J-58
影武者 (黒沢 明)	3'00	2	V913 K (LD) J J-59
檀山節考 (今村昌平)	2'10	2	V913 N (LD) J J-60
さらば箱舟 (寺山修司)	2'07	2	V912 S (LD) J J-63
宇留田俊夫 / ルーブル美術館	2'00	2	V702.3 R (LD) EuJ-23
Finlandia 森と湖の国フィンランド	0'46	1	V293.86 F(LD) EuFd-25
ライン河 -NHK特集から-	0'50	1	V293.4 R (LD) DJ-1
ロマンチック街道 -ドイツ-	0'40	1	V293.4 R (LD) DJ-2
勅使河原宏 / アントニー・ガウディー	1'12	1	V523.6 G (LD) SJ-24



<5F モニター室 オーディオ機器>

## 編 集 後 記

- ⊕ AVジャーナルもやっと10号を数えるようになりました。発行以来、大阪外大の視聴覚教育に関する情報誌として、いささかでも寄与できるものと期待していたのですが?
- ⊕ 記事にもあるように、AVホール、ビデオ教室の新設、更新を機にビデオ鑑賞会を企画したのですが、現在まで、参加者は非常に少なく残念です。

大いに参加されんことを期待します。

- ⊕ D棟が新設されましたが、その教室の中にビデオ教室(80名予定)が11月中旬頃にでき、使用が可能になる予定です。図書館棟のAVホール(172名)、ビデオ教室(36名)と合わせてビデオ授業が出来る教室が3教室になり、今後の一層の利用が望まれます。(H.K.)

# 1986年度 LL授業時間割表

	教室	I	II	III	IV	V	1	2
		9:10~10:40	10:50~12:20	13:10~14:40	14:50~16:20	16:30~18:00	18:20~19:40	19:50~21:00
月 MON	4-I	R1 サンニコワ	Pi2 コイズミ	E1A スターク	E2A スターク	F2 熊野	F 小沢	C 上神
	4-II		P2 ラジエブ	B2 エーベ	R1A 生田	C1B 青野	R 生田	D 野村
	5-I		F1 大木	Pi2 コイズミ		F3,4 小沢	F 大木	F 小沢
	5-II	F2B ボロー	F3A ボロー	It3 アミトラノ		R1B 生田	E 好田	D 時田
	V.R.	H2 溝上	K1 金	K3 金				
火 TUE	4-I	Pi1 津田	Pi1 津田	E2B スターク	D1 高田(博)			
	4-II	U1 タバッサム	H1 マーラビリア	M2 荒井				
	5-I	B2 南田	B1 南田	E1A 舟阪				
	5-II	A3 イサム	K2 藤戸	E2A ボロー	F4 ボロー	F3 ボロー		
	V.R.		K3,4 金	R3,4 桜井	K4 金	C3,4 杉村		
水 WED	4-I	SD1 ビスタム	V1 五島富田	E2 深山	C3,4 上神	St 山本	S 大内	E 上田
	4-II			P1 ラジエブ	D2 高田(珠)			
	5-I		S2 アルバレス	S1 アルバレス	Dm2 アナセン			
	5-II	St 山本	It2 米山	C3,4 上神	S アルバレス			
	V.R.	Pi2 津田	Pi2 津田		R2Ba サンニコワ	R2Aa サンニコワ		
木 THU	4-I	E2 齊藤(隆)	V2 白石		In1 アイブ	C1A 中山		
	4-II	E4 ネルソン	H1 マーラビリア			In2 アイブ		
	5-I	E1B 舟阪	Dm3,4 アナセン		Dm1 アナセン			
	5-II	It1 アミトラノ	B3,4 エーベ		Dm3,4 福居			
	V.R.		C2B 杉村					
金 FRI	4-I	D2 乙政	C2B 上神	C2B 上神		E3 齊藤(隆)	E ドランス	E ドランス
	4-II	PB2 河野	PB1 河野	D1 友田	D2 友田	D1B 杉谷	E 田路	
	5-I	F3,4 大木	E3 船山	SD ビツヒマン	SD2 ビツヒマン			
	5-II	F1B ボロー	F1A ボロー	K1 永井				
	V.R.		K2 金		R2Ab マツカワ	R2Bb マツカワ		

木 I 視聴覚ホール  
美術 長尾

## A V Journal 一第10号一

1986年9月30日発行

編集 大阪外国語大学視聴覚教育委員会  
附属図書館視聴覚資料係  
発行 大阪外国語大学  
印刷 株式会社 ムラタ印刷